

## 古在由秀元台長の文化功労者顕彰記念祝賀会開催

国立天文台初代台長の古在由秀氏が、永年にわたり天体力学・学術振興に貢献された功績により、平成21年度の文化功労者に選出されました。その栄誉を祝して顕彰記念祝賀会が、2月9日に東京會館で開催されました。発起人の鶴山正見台長以下、国立天文台の関係者はもちろん、幅広い分野の研究者、メディア関係者、ご友人など多くの人々がお祝いに駆けつけました。

2010 02 09

### ● 空腹と文化国家 古在由秀

今まで天文学で研究を続けてこられたのは、多くの方のおかげである。大学で天体力学を専攻したが、最終学年で直接指導して頂いたのは当時助手で、その後神戸大学の数学の教授になつた浦太郎さんである。大学での学業成績の悪かった私のために苦労して、給費付きの大学院生の口を見つけてくださったのは、畠中武夫先生であり、その後萩原雄祐先生が台長であった東京天文台に文部省が助手の口をつけてくれたので、1952年、私はそこで就職することができた。このことがなければ、私は天文学では職をえていなかつたろう。

1958年10月から4年間、アメリカのスミソニアン天文台に滞在したが、その台長であったF.ホイップル博士が私を研究者として育ててくださった。到着後3か月ほどで、論文を発表した

が、その時ホイップルさんから、極めて丁重なお褒めの手紙を頂いた。これがその後の研究の励みになった。帰国後、私をいくつかの賞に推薦してくださったのが、萩原雄祐先生である。

大学の入学試験を受けた頃（1948年）、「天文では食えないぞ」と多くの人に忠告された。当時は何時も空腹だったので、そんな状態が一生続くのではと心配したが、その頃日本は文化国家を目指すというスローガンがあり、そうなれば天文でも食えるようになるとを考えたのだが、今回文化功労者にして頂いたことは、有り難いことである。



図上：古在さんと美音夫人。図下：専門の天体力学はいわずもがな、学術振興にも力を注いだ古在さんの面目躍如たるを物語る多彩な参加者の顔ぶれで、記念撮影に引っ張りだこでした。

## 柏川伸成准教授が第26回井上学術賞を受賞

2010 02 04

国立天文台准教授柏川伸成氏が「すばる深宇宙探査計画による銀河形成史の研究」で、平成22年2月4日第26回井上学術賞を受賞されました。

ビッグバンから約38万年後には、宇宙はいったん冷えて陽子と電子が結合した中性水素原子に満たされるようになります。やがて生まれた原始銀河からの紫外線で銀河間ガスは温められ、再び電離したと考えられていますが、この「宇宙の再電離」がいつ起きたのかはこれまでわかっていませんでした。

柏川氏が代表者となって遂行された大型プロジェクト「すばる深宇宙領域探査プロジェクト」の数々の成果の中でも、今回の受賞は、初期宇宙の銀河の系統的な調査で、「宇宙の再電離」が完了した時代を世界に先駆けて解明

したことを称えたものです。

プロジェクトでは、主焦点カメラに特殊フィルターを搭載してライマン $\alpha$ 輝線銀河とよばれる天体の候補を見つけ出し、その赤方偏移をひとつひとつ微光天体分光撮像装置（FOCAS）などを用いて測り、時代を特定しました。その結果、ビッグバンから約8億年から10億年の間に見える銀河の数が変化していることがわかり、その原因が銀河間ガスの電離状態の変化により引き起こされた可能性が高いことを、つきとめたものです。同氏がFOCASの制作責任者として装置を完成させ、自らその装置を用いて成果を挙げたことも特筆される業績です。おめでとうございます。

家 正則（光赤外研究部）



受賞の喜びを語る柏川さん。

### ● 井上学術賞 (Inoue Prize for Science)

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた50歳未満の研究者に対し、井上科学振興財団から贈呈される賞。関係34学会及び同財団の役員・評議員等から候補者の推薦を受けて選考を行い受賞者を決定する。井上科学振興財団は、故井上節子氏の浄財を基金として発足し、若手研究者に対する奨励・支援と国際学術交流の促進に事業の重点を置いた活動で知られている。（参考：井上科学振興財団ホームページ）